

会議録

会議の名称	令和7年度第1回東松山市地域自立支援協議会全体会					
開催日時	令和7年7月30日（水曜日）			開会	午後2時	
				閉会	午後3時50分	
開催場所	東松山市総合会館多目的ホールB					
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 委員紹介 4 役員選任 5 議事 (1) 地域自立支援協議会について (2) 各プロジェクト・連絡会議からの報告 (3) 委員の各プロジェクトへの関わりについて 6 その他					
公開・非公開の別	公開		傍聴者数		1人	
委員出欠状況	会長	朝日 雅也	出	委員	佐藤 美奈	出
	委員	丹羽 彩文	欠	委員	矢部 智之	出
	委員	岸澤 進	出	委員	浅野 聖子	出
	委員	武田 耕典	欠	委員	南澤 甫	出
	委員	松井 治子	出	委員	横田 大輔	出
	委員	上野 秀爾	出	委員	狐塚 汐里	出
	委員	池永 和美	出	委員	長澤 誠	欠
	委員	西川 光治	出	委員	和久井 洋助	出
	委員	原子 一彦	出	委員	磯崎 祐子	欠
	委員	奥村 一彦	出	委員	牛久保 菜々子	出
	委員	若尾 勝己	出	委員	榎本 淳也	欠
	委員	戸森 健治	出	委員	富樫 正紀	出
	委員	井上 則子	出	委員	山名 朋子	出
	委員	大石 和夫	出	委員	長澤 正博	出
	委員	田原 祐己子	出	委員	柴崎 恭史	出
委員	山口 剛史	出	委員	荻原 久美子	出	
各プロジェクト・連絡会議	東松山市社会福祉協議会 阿久津 明子			西部・比企地域支援センター 南澤 甫		
	東松山市社会福祉協議会 林 茂史			東松山市障害者就労支援センター 木村 孝		
事務局	健康福祉部 柳沢部長			健康福祉部 山口次長		
	障害者福祉課 浅野副課長			障害者福祉課 小松主査		
	障害者福祉課 金子主任					

次 第	顛 末
<p>1 開会 事務局 (障害者福祉課 金子主任)</p>	<p>皆様 こんにちは。 本日はお忙しい中、お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。 私は、本日の司会を担当いたします障害者福祉課の金子と申します。 どうぞよろしく願いいたします。 それでは、ただ今から「令和7年度第1回東松山市地域自立支援協議会全体会」を開会いたします。 本会議につきましては、事前にお配りした次第により進めさせていただきます。 はじめに、柳沢健康福祉部長よりご挨拶申し上げます。</p>
<p>2 あいさつ 柳沢健康福祉部長</p>	<p>— あいさつ —</p>
<p>3 委員紹介 事務局 (障害者福祉課 金子主任)</p>	<p>本日は委員改選後1回目の会議でございますので、委員の皆様より「自己紹介」をお願いいたします。お手元の名簿順で「佐藤委員」より、お願いします。</p> <p>— 全体会委員自己紹介 —</p> <p>続きまして、幹事会からご出席いただいている委員の皆様のご紹介をさせていただきます。</p> <p>— 幹事会委員紹介 —</p> <p>続きまして、事務局を紹介申し上げます。</p> <p>— 事務局職員紹介 —</p>
<p>4 役員選任 事務局 (障害者福祉課 金子主任)</p>	<p>続きまして、会長の選任に移らせていただきます。 東松山市地域自立支援協議会開催要綱により、会長は委員の互選により定めるとされております。ご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。 もし、いらっしゃらないようであれば、事務局から提案させていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。 それでは事務局より提案させていただきます。会長については、引き</p>

	<p>続き朝日委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。 ご意見がなければ拍手を持って承認とさせていただきたいと存じます。</p> <p>— 拍手 —</p>
<p>事務局 (障害者福祉課 金子主任)</p>	<p>ありがとうございました。それでは、会長は朝日委員にお願いいたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>朝日委員におかれましては、会長の席へのご移動をお願い申し上げます。</p> <p>ここで、会長からご挨拶をいただきたいと存じます。 改めまして、朝日会長、よろしくお願いいたします。</p>
<p>朝日会長</p>	<p>— 会長あいさつ —</p>
<p>事務局 (障害者福祉課 金子主任)</p>	<p>ありがとうございました。続きまして、副会長の指名を朝日会長からお願いいたします。</p>
<p>朝日会長</p>	<p>副会長は、佐藤委員にお願いしたいと思います。</p>
<p>事務局 (障害者福祉課 金子主任)</p>	<p>佐藤委員におかれましては、副会長の席へご移動をお願いします。</p> <p>本日の会議の会議録作成にあたり、出席委員2人の方に署名をお願いしたいと存じます。本日の会議録につきましては、矢部委員と南澤委員にお願いいたします。後日、会議録ができましたら事務局よりご連絡を申し上げますので御署名をお願いいたします。</p>
<p>5 議事</p>	
<p>事務局 (障害者福祉課 金子主任)</p>	<p>それでは議事に入ります。議事につきましては、東松山市地域自立支援協議会開催要綱により、会長が進行を務めることとなっておりますので、朝日会長よろしくお願いいたします。</p>
<p>朝日会長</p>	<p>では、しばらくの間、議事を進行してまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。</p> <p>まず議事に入る前に、確認事項がございます。東松山市審議会等の会議の公開に関する要綱では、会議の公開非公開の決定を会に諮って決めることとなっております。公開の場合、傍聴希望者がいらっしゃれば、傍聴いただくこととなります。事務局に確認しますが、今日は傍聴希望者の方はいらっしゃいますか。</p>

事務局 (障害者福祉課 金子主任)	1名いらっしゃいます。
朝日会長	本日は1名傍聴者がいらっしゃいます。本日の会議を公開の会議とし、会議資料や会議録を公表してよろしいでしょうか。
委員一同	— 異議なし —
朝日会長	それでは、本日の会議を公開とし、傍聴者に入室いただきます。 — 傍聴者の入室 —
朝日会長	それでは、議事に移ります。議事の(1)地域自立支援協議会について事務局から説明をお願いしたいと思います。
事務局 (障害者福祉課 金子主任)	— 東松山市地域自立支援協議会について説明 —
朝日会長	続きまして、議事(2)各プロジェクト・連絡会議からの報告についてです。各プロジェクト・連絡会議から令和7年度の進捗について報告していただきます。質疑応答はすべての報告が終わった後でお願いしたいと思います。 ではまず、障害者進路支援連絡会議から報告をお願いします。
木村リーダー	— 障害者進路支援連絡会議について報告 —
朝日会長	続いて「障害のあるこどもの育ちと学びを支える連絡会議」から報告をお願いします。
阿久津リーダー	— 障害のあるこどもの育ちと学びを支える連絡会議について報告 —
朝日会長	続いて「医療・福祉連携プロジェクト」から報告をお願いします。
南澤リーダー	— 医療・福祉連携プロジェクトについて報告 —
朝日会長	では、最後になりますが「地域生活支援拠点等連絡会議」から報告をお願いします。

林リーダー	<p>— 地域生活支援拠点連絡会議について報告 —</p>
朝日会長	<p>では、ただいま各プロジェクト・連絡会議より報告がございました。委員の皆様から何かご質問やご意見があればいただきたいと思います。障害者進路支援連絡会議について、何かご質問、ご意見のある方はいらっしゃいますか。</p>
若尾委員	<p>今後の方向性というところで2点ほど質問させていただければと思います。一つ目は、令和7年10月から施行予定になっている就労選択支援事業について、この進路支援連絡会議の中でも進路選択という言葉を使ってこれまでも色々な活動をされてきているかと思いますが、就労選択支援事業とこの連絡会が今後どのように関連付けながら活動していくのか、令和7年度以降のことかもしれないですが、そのあたりが方向性として連絡会の中で議論されているようであればそれをお伺いしたいと思います。</p> <p>二つ目は、厚生労働省から発出されている文書の中では、特別支援学校等という書き方になっており、就労選択支援事業については対象者の拡大を将来像として検討しているプロセスがあります。説明の中で、手帳を持っていないお子さんがいる保護者も参加されているというお話がありましたが、今後の方向性として、特別支援学校の進路選択の一助になるような活動だけではなく、そういった方々も含めた活動を行っていくのでしょうか。これは、並行して就労選択支援事業が動き出した時には、学校を卒業され、就労もしくはサービスを検討される方々については、必ず通らなくてはならないことになってくるはずなので、そのあたりが既に意見交換されているようであれば教えていただきたいと思います。</p>
朝日会長	<p>本年10月から始まる就労選択支援事業と、この進路支援の対象となる人たちをどのようにこれから広げていくのかについてのご質問と承りました。先ほどの木村委員のご発表の中では、確かに就労選択支援事業がわかりにくいという共通理解がご紹介されたところでありますけれども、本件についてご回答いただきたいと思いますがよろしいでしょうか。</p>
木村リーダー	<p>一つ目の就労選択支援の方の件ですが、わかりにくい、就労アセスメントがそもそもよくわからないというご意見をいただいたところです。しかし、連絡会議の中で進路選択についての協議はしているのですが、就労アセスメントに関しては比企地域自立支援協議会を中心に実施していただいている面もあったので、市の方の進路支援連絡会議ではあまり触れておりません。今後、どのように取り組んでいくべきかを含めてこれから協議をするという段階ですので、まだ議論までは進んでいない状</p>

<p>朝日会長</p>	<p>況です。</p> <p>二つ目に関しましても、このところ手帳のない方の支援という観点で、そういった方が学校を卒業された後に特別支援学校に入学する方もいらっしゃるようですが、やはり普通学校にいと情報がなかなか行き届かない傾向があることがわかってきているところです。今年も、普通学校の方にも周知を行いました。情報提供の在り方についても、今後の課題として協議をしていきたいと考えております。</p> <p>1 2 頁のところ、アンケートの記載の中で手帳がないグレーゾーンに関する記載がありますが、手帳がないことが必ずしもグレーゾーンかはわかりません。手帳を取得しないという選択をされる方もいらっしゃる。そういう意味では対象者を固定するというよりも、見えない対象者といえますか、ニーズにもしっかりと向き合った上で想定して、切り込んでいく時には具体的なアプローチが必要だと感じました。</p>
<p>佐藤副会長</p>	<p>1 3 頁の今後の活動について、中学生による職業体験のことで伺います。昨年度の評価では、この取組について障害者雇用を行っていない企業にも参加していただき、障害者雇用についての理解促進を図ってきたいという評価がされていたところです。今回、ご協力をいただいている5つの企業はそういったことも考慮しながらお願いをされたのでしょうか。</p>
<p>木村リーダー</p>	<p>今回5社の企業にお願いさせていただいた中で、エネックス株式会社が商工会の方からご紹介をいただきまして、障害者雇用をまだされていない企業になります。また、障害者雇用についてもよくわからないけれどもご協力をいただけるということだったので、今回、お願いをしました。また、その他の企業もいろいろ考えた上で選択をしています。昨年度に飲食業もあった方がよいのではないかと話もあったのですが、飲食業の場合は検便の面から少しハードルが高くてうまくいかなかったところがあり、今回こちらの5社にお願いをしました。</p>
<p>朝日会長</p>	<p>昨年度までの検討内容を踏まえた上で令和7年度に取り組んでいただいていることを確認いたしました。</p> <p>感想めいたことで申し訳ないのですが、キャリアデザインフォーラムの対象者を考えると、ワークキャリアも含めたライフキャリアについて、どのように支援していくかという観点から幅広くニーズに向き合っているのがよろしいのではないかと感じました。</p> <p>ほかにはよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、2番目の障害のあるこどもの育ちと学びを支える連絡会議については何かございますか。</p>

	<p>それでは、議長からの質問で申し訳ないのですが、18頁の市内児童発達支援事業所へのアンケート調査について、先ほどご紹介いただいた昨年度の取組の中で、保育園や児童発達支援事業所等の関係の方たちが連携していくことの重要性を強く実感させていただいたところです。その上で、令和5年度調査結果から移行支援と地域支援が十分に進んでいないというところですが、この辺りについては今年度のヒアリングやアンケート調査の中で、具体的にどのような聞き方によって踏み込んでいこうとされているのでしょうか。</p>
阿久津リーダー	<p>現在、事務局の方でアンケート調査の内容を検討している状況ですが、そもそも事業所の方で実際に移行支援や地域支援を行っているかということや、行っていないのであればそれが難しい理由についての課題抽出をしたいと思っています。やはり地域支援を一事業所がやることは非常に難しいテーマだと思うので、協議会としてどのようにすれば一緒に取り組んでいけるかについて、逆に事業所の皆さんからご提案いただけることがないかを聴き取っていきたいと考えております。</p>
朝日会長	<p>よくわかりました。まずは探索的な観点から臨んでいこうということだったと思います。</p> <p>もう一つ、ディスカッションのための投げかけになりますが、16頁の巡回相談について、巡回相談支援チームのメンバーであり、本日は委員として校長先生方がいらっしゃいます。特別支援教育コーディネーターとして東松山と川島ひばりが丘からそれぞれの先生方にご参加をいただいている、もう一方で普通学校における特別支援教育コーディネーターがいることになるかと思えます。このあたりについて、これが特別支援学校の色合いが強いという意味ではなく、色々な観点から考えていくために、巡回支援チームのメンバー構成はどのような基準や考え方で行われているかを教えていただければと思います。</p>
阿久津リーダー	<p>巡回相談支援チームのメンバーに関しては、巡回相談の取組が始まった頃から特別支援学校のコーディネーターの先生と医療機関、相談支援事業所、障害者福祉課で固定しています。医療と福祉の両方の視点を巡回チームに取り入れさせていただいて、お子さんたちの学校生活を支えるという面からこのようなメンバー構成になっているということで確認をしております。</p>
朝日会長	<p>ありがとうございます。もちろん特別支援学校の特別支援教育コーディネーターをされている先生なので、障害特性に関する情報や対応方法についてご造詣が深いのはわかるのですが、私の理解が違っているかもしれないので、もしよろしければ原子委員と和久井委員から今の投げか</p>

	<p>けについて何かあればご助言いただければと思います。</p>
<p>原子委員</p>	<p>通常の学校のコーディネーターは、校内と校外を結び、どのように相談にもっていくかコーディネートするのが仕事かと思っております。一方、特別支援学校のコーディネーターは専門で特別支援を学んできている者が行っていますので、通常の学校を巡る中でのアドバイスを行うなど、そういった専門性を持っているのが特別支援学校の教育コーディネーターかと思えます。</p>
<p>和久井委員</p>	<p>私の認識でも、通常の小中高の学校では養護教諭の先生であったり、授業を持っている先生がコーディネーターであったりという現場サイドのケースが多いと思います。なので、特別支援学校だと地域循環をメインに担当する教員が配置されていますので、そういう意味では少し役割が違うかと考えています。</p>
<p>朝日会長</p>	<p>ありがとうございます。資料にも書いてあるように、インクルーシブの理念を実現していくための教育の在り方について、幅広く巡回して相談に乗るとのことなので、その時にはもちろん特別支援学校のコーディネーターだからといって特別支援学校を代表して関わるという意味ではなくて、専門的な見地からその子の最もニーズに合った教育について巡回相談を行うという理解になるのかと思っておりましたので、よくわかりました。ご説明ありがとうございます。</p> <p>ほかにはよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、医療・福祉連携プロジェクトについてですが、こちらについては何かご意見、ご質問等ございますか。</p>
<p>若尾委員</p>	<p>もしわかるようであれば教えていただきたいのですが、現在、私自身が埼玉県の自立支援協議会の中の医ケア児者重症心身障害児者支援部会の方に参加させていただいております。先日、1回目の会合があり、その中で当事者の保護者から、医療から移行していく移行期のお子さんの日中活動の場のことや、ともすれば就労の話題も出ました。残念ながら、私の組織で対応させていただいている中では過去に1人、2人いたかという人数で、なかなか就労であったり日中活動に相談から繋いだというケースが事例としてはなかったところですが、今後、県の方の支援部会でも、移行期のことについては担当のドクターを中心に話を進めていくような流れになっていたものなので、もしそういった方たちのニーズや意見があれば、ぜひ伺いたいと思っておりますので質問させていただきました。</p>
<p>朝日会長</p>	<p>関連するご発言はありますか。</p> <p>私も県の医療的ケア児の支援コーディネーターの研修のところに携わ</p>

	<p>っており、昨年度からその科目に労働が含まれました。今までは医療的ケア児について労働という文脈で捉えると、医療的ケアが必要になるので、本人よりもそのご家族の方について、働くことが難しかったり仕事をする機会がないので、そういった文脈の中で労働というものが使われていたのですが、これからは医療的ケアを必要とする方自身が、労働をするという対象になることが想定されます。ICTの進展や環境の変化によって医療的ケアが生活介護にとどまらない動きが出てきていることも、私自身が担当しながら実感させていただいたので、そういったことも含めてこのプロジェクトでの意向、あるいは働くことについてどのように捉えていくと考えているか、ご説明いただいてもよろしいでしょうか。</p>
<p>南澤リーダー</p>	<p>移行期の話や通い先の話としては、成人期のモニタリングの中に出てくると思われるので、今年11月の成人期のモニタリングの際に出てくると思います。現状で報告ができることと、資料の23頁に記載していますが、プロジェクトの課題をブレインストーミングした時には、17歳以上で呼吸器があると治療入院先が見つからないなど、呼吸器があるということがかなり大きなポイントになっていることや、児から者に転換するとき科をまたいでしまうことがあるので、知っている先生にかかりたくてもなかなかそれが叶わないというような課題がいくつか出てきました。いずれも個別性が高い話なので、プロジェクトの中で行っているモニタリングでも課題の抽出時に、例えば児童期に働きたいという保護者の課題が出てきており、データとしてこういう話があるということを知っているのですが、我々が把握するまでに数年かかりたりするので、成人期のモニタリングの時にこういった話題が出てくるのではないかと思っていますところ。ちなみに、前年度に行った成人期のモニタリングの中では、労働の話題もありましたが、どちらかという災害時に電気をどのように確保したらよいかという話の方が多く出ていました。</p>
<p>朝日会長</p>	<p>ありがとうございました。ほかはいかがでしょうか。</p>
<p>佐藤副会長</p>	<p>4頁で事務局の方から自立支援協議会の組織についての説明をいただいておりますが、そちらによると、プロジェクトがあつて、プロジェクトで課題を把握したり、その課題の解決を行うために連絡会議を設置するとあるのですが、医療・福祉連携プロジェクトが今後連絡会議に進んでいくという方向性があるのか、もしあるようであればその時期について教えてください。</p>
<p>南澤リーダー</p>	<p>以前、本プロジェクトを連絡会議に移行することを計画したことはあ</p>

<p>朝日会長</p>	<p>ったのですが、その中で連絡会議に変えていくことの意味合いやすり合わせがしきれなかったことや、プロジェクトを協議の場として位置づけるという文言があることの兼ね合いもあって連絡会議にうまく移行できなかったという経緯があります。しかし、将来的には移行したいと思います。</p> <p>感想めいたことで申し訳ないのですが、医療的ケア児者ということは政策的なキーワードになっておりますし、実態としてもその重要性についてはどなたも否定されることはないと思います。しかし、一方で、医療的ケアを必要とする方と決められた固定的なものになっていくと、もちろん医療的ケアを必要としないと生命が維持できないという重要性はあるのですが、それと同時に、例えば学齢期であれば学ぶこどもであり、成人期であれば働く人、あるいは地域で暮らす人かもしれないというのが前提であって、その場面場面において医療的ケアを必要とするという捉え方が非常に大事かと思えます。本プロジェクトではそのようなことはないと思いますが、問題ありきで医療的ケア児者といった固定観念を持つのではなく、このような捉え方が重要かということを改めて感じさせていただいたところでした。ありがとうございました。</p>
<p>朝日会長</p>	<p>ほかにはよろしいでしょうか。</p> <p>それでは最後になりますが、地域生活支援拠点等連絡会議について、ご質問やご意見等いかがでしょうか。</p> <p>また議論のための質問になるかもしれませんが、資料の最後の頁にサービスを使っていない方のリストがありました。東松山市の地域でこのような観点から抽出を行い、事務局で精査をした上で情報共有をしていくことは非常に重要と思えますが、備考に書かれていることが非常に気になりました。架電するも訪問拒否をされたり、通知発送後も反応なしというところで、言ってみればアウトリーチの在り方も含めて問われているのかと思えます。サービスを使っていないということについて、使うか使わないかの選択も含めて、専門家からの適切なサービスを使うことによってよりクオリティの高い生活を実現するということになると思うのですけれども、使わないということも一つの選択肢であると考えた時に、この対象者の方にどのようにアプローチしていこうっていらっしゃるのか、このあたりのことで何か議論がされているようであれば教えていただければと思いました。</p>
<p>事務局 (障害者福祉課 小松主査)</p>	<p>本件に関しては事務局から回答いたします。おっしゃるとおり、サービスに繋がっていない方ということで、必ずしもサービスに繋げようとしているわけではございません。まずそれぞれの生活実態をまず把握した上で、必要がある方についてはサービスに繋がりますが、不必要なサー</p>

	<p>ビスを使っていたことは想定しておりません。今後については、一旦この6人の方の実態を調査して、それぞれ想定されるくらいクライシスや生活像が異なるところもありますが、この6件のサンプルを見た上で連絡会議としての取組をまた考えていきたいところでございます。基本的な考え方としては、拠点事業を行っていく、また、進めていく上で、今後も定期的にこのような抽出と、実態調査やアウトリーチを続けていきたいと考えております。</p>
朝日会長	<p>ありがとうございました。これからを考えていくための一つのプロセスであり、情報の共有ということがよくわかりました。</p>
井上委員	<p>私がこの協議会に参加したいと思ったことは、まさにこの件です。私の子は発達障害で人間関係があまり良くて、就労支援等で色々とお世話になった方ももうまくいかなくなる場合が出てきてしまって、こうした時、その後のケアはどうしたらよいかということをいつも考えています。これまでは他のところを探したりしてきたのですが、これから親がいなくなってしまう後に、お世話してくださっている方と関係がうまくいかなかった時でも継続した支援が必要なことはわかっています。そういった時に、本人が連絡をしないからその支援は必要ないということではなくて、どのように継続して支援をしていってもらおうかということが、現在一番心配になっているところです。</p>
朝日会長	<p>井上委員さん、ありがとうございました。 先ほど私はアウトリーチという言葉を使いましたが、今のお話の中で、支援する側から見た時に、反応がないのでどうするかということだけではなく、もしかすると井上委員さんがおっしゃったように、使えるかどうかは別として、なぜ今そのサービスを望まないのかという背景も含めて、丁寧に状況を確認しあったり、もしかするとそのテーブルについて、インタビューすること自体が負担になるかもしれませんが、その辺りについて、背景であったり、その理由や原因を共有していくという丁寧な対応が必要なのかと思いました。本件について何かございますか。</p>
事務局 (障害者福祉課 小松主査)	<p>本リストの1番の方について、行政の訪問はよいがそれ以外の方は来ないで欲しい、自分のこどもは家にいるのが一番幸せである、私達はそれでよいのだというような拒否があったりもしました。この方については、まずは実際にお会いすることや、関係づくりから始めていきたいと考えています。調査については拒否があったから終了ということではなく、その先に繋がるような支援も関係づくりと並行しながら進めてまいりたいと思います。このリストに挙がっている6人の方については、市</p>

	<p>が把握している記録等は全て目を通させていただいております。これまでどういったことを経験してきたとか、こういう活動をしていただけたけれども今はしていないとか、情報量は少ないのですが、こういった背景を関係機関とも協力して集めながら、今の困り事や、将来予想される困り事について情報共有を行うとともに、支援を行うための検討を行ってまいりたいと思います。</p> <p>なお、参考までに、今回40歳以上で療育A以上の方という条件を付して抽出をしておりますが、こちら埼玉北地区の拠点事業で同様の条件で抽出をしたところ、拠点事業でいわゆる緊急時が想定される対象者像とマッチする割合が高かった条件だったということ参考に抽出をさせていただいておりますので、毎年、対象者は変わったり増えたりすると思いますので、こうした取組を継続してまいりたいと考えております。</p>
井上委員	<p>これからも、見捨てるとかではなくて今後も見守ってくださるということによろしいのでしょうか。</p>
事務局 (障害者福祉課 小松主査)	<p>そうですね。現在、こちらで把握している方は、相談支援事業所の方で緊急時が想定される方ということでご推挙いただいている方々なのですが、この取組は、現在、把握されていない方をこちらから探しに行くというようなアプローチを行うものになります。</p>
井上委員	<p>現在、総合福祉エリアで相談員の方にお世話になっているのですが、そういう方と今後もし関係が悪くなってしまった場合、また何か違う支援に繋げていってもらえるということなののでしょうか。</p>
事務局 (障害者福祉課 小松主査)	<p>先ほど説明した内容については、あくまでも拠点事業としての取り組みになりますので、その時のご希望や状況にもよりますが、障害者福祉課としてはご相談にはもちろん応じさせていただきます。</p>
林リーダー	<p>貴重なご意見ありがとうございます。いろいろなニーズがある中で、井上委員さんがおっしゃっていただいたように、関係が悪くなった場合、その先の支援は他にもあるのだろうかということを心配される方が多くいらっしゃるのではないかと思います。拠点の機能で申し上げますと、一つの相談機能になります。一つの相談支援事業所でうまくいかないケースや、そういった方が多くいらっしゃいます。なので、拠点の事業も含め、相談機能というところで、登録事業者もそうですが市内に多くの相談支援事業所がありますので、一つの事業所でうまくいかなかったとしても、その後、情報共有をしながら、その方に合った相談先を地域で準備しながら進めていきたいと思っています。</p>

井上委員	また後で色々お聞きしたいと思います。
朝日会長	協議会としては、支援拠点の中の相談の部分についてフォーカスいたしました。個別の相談や日々の福祉サービスの提供等に係る課題については、また色々な形を通してご意見いただければと思います。ありがとうございました。
朝日会長	ほかにはよろしいでしょうか。ないようでしたら、議事の（２）については以上とさせていただきます。議事（３）「委員の各プロジェクトへの関わりについて」についてです。まず事務局からご説明をお願いいたします。
事務局 (障害者福祉課 小松主査)	— 委員の各プロジェクトへの関わりについて —
朝日会長	<p>ありがとうございました。本件については、協議会の議論をさらに活性化していくための一つの方法として、それぞれの委員の皆さんにとって特に関心がある会議やプロジェクトの議事録や進捗について、関心を持続していただいた上で必要に応じてご発言いただきたいと趣旨でございます。それぞれの会議やプロジェクトからイベント等のご案内があった時に出席してくださいというわけではありません。一つの拠り所として自身の担当をもっていただくことで、より活性化に繋がるのではないかとお願いしたところでございます。本日時点での状況がわかりましたので、新しい委員さんなどのご要望にもタッチしていただいて、次回以降に繋げていただきたいと思っております。</p> <p>それでは、用意した議事は終了になります。</p> <p>他にないようでしたら、議事を終了して、議長の職を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。事務局にお返しいたします。</p>
6 その他 事務局 (障害者福祉課 金子主任)	<p>朝日会長ありがとうございました。続いて、次第の6、その他でございますが、委員の皆様から何かございますか。</p> <p>ないようですので、以上をもちまして、令和7年度第1回の東松山市地域自立支援協議会全体会を終了いたします。令和7年度第2回全体会につきましては、日程が決まりましたら改めてご連絡申し上げます。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>

上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。

令和7年 8月26日

署名委員 矢部 智之

署名委員 南澤 甫